

キラリと光るダイセル製品のお得情報が満載！
キラきら情報通信@ダイセル

ダイセル2020年度キャンペーン
対象製品2本以上購入で
CHIRALPAK® IJ or IJ-3 がもらえる！！

2020年11月開始！！

対象製品 2本以上購入で
**IJ or IJ-3 カラムが
1本もらえる！！**

CHIRALPAK® IJ/IJ-3
上市記念キャンペーン

■キャンペーン期間
2020年11月4日(水) ▶ 2021年3月31日(水) 受注分まで
●対象製品：iCHIRAL SERIES IA～IH, IA-3～IH-3

購入対象製品	HPLC用 耐溶剤型カラム：IA～IH, または IA-3～IH-3
対象条件	対象製品 2本以上同時ご購入で、同サイズの IJ or IJ-3 を1本プレゼント (2本ともに 3μm、または 2本ともに 5μm) (2本ともに 4.6×150mmL、または 2本ともに 4.6×250mmL)

CHIRALPAK® IJ/IJ-3上市を記念したキャンペーンを2020年11月より開始いたします！

対象製品(CHIRALPAK® IA～IH、またはCHIRALPAK® IA-3～IH-3)を
2本以上ご購入のお客様に
CHIRALPAK® IJ またはCHIRALPAK® IJ-3を1本ご提供します。

キャンペーン期間

2020年11月4日(水) ～ 2021年3月31日(水) 受注分まで

購入対象製品

HPLC用耐溶剤型カラム：CHIRALPAK® IA ～ CHIRALPAK® IH または CHIRALPAK® IA-3 ～ CHIRALPAK® IH-3

対象条件

対象製品 **2本以上** 同時ご購入で、**同サイズ**の CHIRALPAK® IJ or CHIRALPAK® IJ-3 を1本プレゼント

- ・**2本ともに 3μm** または **2本ともに 5μm**
- ・**2本ともに 4.6 x 150mmL** または **2本ともに 4.6 x 250mmL**

キャンペーン詳細はこちらから▶▶ <https://www.daicelchiral.com/ij-campaign.html>

次頁へ続く↓↓



大好評につき第2弾！ 帰国まで・・・編 コロナ禍でのアメリカから帰国



2月末に行った自由の女神
まさかコロナであんなことになるとは
全く予想していませんでした・・・。

Analytical Tools BU研究開発センター
大西 崇文 さん

皆さん、こんにちは。

前回私が体験し、感じた**アメリカでのコロナの状況や対応**についてご紹介しました。今回はちょっとした続編としてCOVID-19(以降コロナと略す)下での**日本への帰国**についてご紹介させて頂きたいと思います。

私の帰国は2020年の年明けには決まっており、**当初の予定は6月末**ということでした。帰国前にまだ行けていないところへ行っておこうと妻と相談して、2月末にニューヨーク市(自由の女神とブルックリン橋)と5月中旬にナイアガラの滝へ観光に行く計画を立てました。この時点ではまさかコロナであんなことになるとは全く予想していませんでした。

ニューヨークへの観光は、奇跡的に「クラウンパス」という自由の女神の冠にある展望台までアクセスできるチケットが取れ、意気揚々とニューヨーク市に向かいました。アメリカ北東エリアでコロナが拡大したタイミングの1、2週間前だったので、今思えば極めて微妙なタイミングでの旅行でした。

当時はコロナに対する認識はあったものの、まだどこか「別の国の話」のようなイメージでいたのは事実です。数週間後に、テレビでニューヨーク市が戦場のようにになっている状況を見て愕然としました。ニューヨークでコロナが爆発的に広がった頃に、会社の人に冗談っぽく「ニューヨーク行ってたけどコロナ大丈夫？」って言われたことが今でもとても印象に残っています・・・。ナイアガラの滝の計画はお察しの通り中止しました。観光などしている場合ではなくなり、さらに4月頃からカナダが外国人の入国規制を実施しており入国もできない状況にありました。

私が住んでいたアメリカ北東部では3月中旬からコロナが広まり、5月頃には一旦の小康状態になりました。その間はとにかく**家、スーパー、会社以外への外出は一切せず**、粛々と毎日を過ごしていました。ニュースを見るのが憂鬱(コロナ鬱?)になり、日本で録画した映画や番組をひたすら見て過ごすことで気を紛らわしていました。

GW明けにいよいよ内示が出て、帰国の準備に取り掛かりました。この頃には日本も入国規制を敷き「飛行機に乗って、はい、帰国」とはいかない状況にあったため、人事Grに助けを仰ぎつつ準備を進めることにしました。5月下旬に入り、ばたばたと準備をしていると「**6月末から8月末へ帰国時期が変更になった**」という連絡を受けました。今思えば、ここで与えられた追加の2ヶ月は私たちにとって極めて重要な意味を持つ2ヶ月になりました。というのも当初帰国予定の6月末時点ではペンシルバニア州のほとんどの地域が**イエローフェーズ**(かなり強い制限下で一部の経済活動のみが再開を許される状況)で、強い制限のために**何もできず、何もせずにアメリカを離れることになっていた**と思います。

追加期間である7月に入り、ペンシルバニア州の全ての郡が**グリーン**



ブルックリンからマンハッタン島を撮影

今月号は3頁目もあります！ 続く↓↓

フェーズ(もちろん元通りではなく、新様式の生活パターンである程度の制限下での経済活動の再開が許される状況)に移行し、レストランや様々な店舗が営業を再開していきました。ある程度的人数であれば集まることも許され、**帰国前に同僚が送別会を開いてくれ**、最後にほとんどの同僚と直接顔を合わせることができました。アメリカ流とまで言っていないかどうかは分かりませんが、CTI(Chiral Technologies, Inc.)では送別会などのイベントはランチに行くことが多く、日本のように飲みニケーションのようなケースは少ないようです。もちろん上司が部下を自分の家に招待してご馳走する場合は夜が多いようで、私もクリスマスなどに上司の家にお呼ばれしてディナーをご馳走になりました。夜は「家で家族との時間を大切にする」のがアメリカ流なのかもしれません。



話を戻しますが、私の送別会の時はグリーンフェーズになったとは言え、レストランでのランチは避け、会社の屋外でバーベキューをしてくれました。**アメリカの伝統的なバーベキュー**は日本人の思うそれとは少し異なり、メニューはハンバーガー、ソーセージ、ポテトサラダ、サワークラフトが一般的です。ハンバーガー用のパテとソーセージをグリルで焼いてみんなで分け合って食べます。もちろん飲み物はビールです。日本人の私にはパンを食べながらビールという習慣だけは・・・いまいち馴染むことができませんでした(笑)。

最後の2ヶ月では、お気に入りのアンティークショップも営業を再開し、帰国前に少しだけ訪れて買い物をすることもできました。仕事面でも7月から終日ラボ作業ができるようになり、残務に加えて、新たな実験も実施でき、個人的にはまとまった結果を残すことができたと思っています。新たに与えられた2ヶ月はあっという間に過ぎ、引越し・出国の日が近づいてきました。

帰国に際して大きな懸念事項が2つ出てきました(細かな心配事を言い出すとキリなくありましたが)。それは「**ニュージャージー州への他州からの訪問者に対する規制**」と「**日本への入国規制**」でした。

前者はニューアーク国際空港のあるニュージャージー州が**コロナ患者が一定数以上いる州からの訪問者に14日間の隔離を求めている**ことでした。これは8月初旬にはアメリカ南部・南西部ではコロナの第二波が訪れていましたが、北東部は比較的うまく抑え込むことができていたため、北東部の各州はコロナ患者の多い州からの訪問者に対して規制をかけていました。私がいたペンシルバニア州が規制対象となれば、全ての帰国計画がパーになる危険がありました。この規制の対象となる州は非常に頻繁に更新されるため、インターネットでニュージャージー州の規制に関するページとペンシルバニア州のコロナ患者数推移のページをドキドキしながら閲覧していました。幸いペンシルバニア州はコロナの新規感染患者数をかなりコントロールできており、規制の対象になることはなく、計画通りにペンシルバニア州からニュージャージー州へ移動し、ニューアーク国際空港から日本への帰路につきました。

余談ですが、ニューアーク国際空港はニューヨークの3つある国際空港の1つで、普段は溢れかえるほど人がおり、出国手続き・手荷物検査は1時間以上かかることもあったのですが、私の帰国時は人はまばらで**20分程度で済み**ました。あまりに人がおらず「この空港ってこんなに広かったんだ・・・」と思うほどでした。また、それぞれ思いの対策をとっており、**使い捨ての全身防護服の人**もいれば、**マスクを取って平然と食事する人**もあり、不思議な空間でした。

飛行機は成田空港へのダイレクトフライトで、普段も日本へ帰国する際にはよく使用していた便でしたが、空いていた試しがない飛行機でした。それが、**乗客が座席に対して30～50%程度とかなり空いている状態**でした(航空会社のコロナ配慮で制限をかけていたのかもしれませんが)。乗客の大半が成田で乗り継ぎ上海へ向かう中国人の方々と、日本人は6名ほどでした。普段であれば、フライトの間は長く苦痛な時間になるのですが、「**もう一つの懸念事項**」が心配で・・・あっという間に日本に着きました。(続きは・・・次号に掲載！お楽しみに♪)

発行元:株式会社ダイセル CPIカンパニー

〔東京〕 〒108-8230 東京都港区港南2-18-1 JR品川イーストビル

TEL: 03-6711-8222 FAX: 03-6711-8228

〔大阪〕 〒530-0011 大阪市北区大深町3-1 グランフロント大阪タワーB

TEL: 06-7639-7221 FAX: 06-7639-7228

ヘルプデスク フリーダイヤル: 0120-780-104 HP: <https://www.daicelchiral.com/>